

はじめに…………… 3

序 章 現代文明の基礎、唯物科学に問題がある…………… 5

靈を認めない現代文明の行き詰まり…………… 6

靈魂説が文明転換のキーポイント…………… 8

第一章 近代心靈研究 「靈」というタブーをこえて…………… 21

フォックス家事件 神人協同の大事業の始まり…………… 22

唯物思想というとらわれ——物神支配…………… 22

神とサタンの熾烈な闘いと三つの時代…………… 24

真正な心霊現象の条件……………27

霊媒と心霊研究を縛る宗教の弊害……………27

ミイラとりがミイラになる学者たち……………29

心霊実験の条件……………31

## 第二章 スピリチュアリズム

—— 霊交があきらかにした死後の世界……………37

死後の世界がなければ正義なし……………38

玉石混交の霊界通信……………42

西欧的自我の問題 なぜ日本へ渡ったのか……………44

## 第三章 浅野和二郎「日本神靈主義」

日本に渡りスピリチュアリズムは進化した	51
偉業を成した日本の心霊研究の父	52
浅野和二郎がスピリチュアリズムを前進させた点	54
浅野和二郎批判の意味するところ	59
「人は何処より来りて何処に去るのか	
——人類永遠の謎を科学的に解明しようとした」	61
「彼の知性は、思いがけない罫にはまった」	62
「明治の知的エリート浅野和二郎（……）の思考の悲しき痕跡」	64
守護霊研究の大きな意義	67
ネオ・スピリチュアリズム「人は神」の根拠	67

招霊実験（鎮魂帰神）による守護霊研究は世界的業績	67
浅野の「創造的再生説」	68
守護霊研究と自然霊研究が「人は神」の土台となる	69

#### 第四章 「日本神霊主義」の進展 脇長生……………77

脇長生「波長の法」の功績	78
霊の働きを詳細に解明した意義	82
霊の働きの実例『スピリチュアルな生き方原典』	82
波長の法は人生指導原理の基本	86
幽体浄化	89
日本神霊主義の病気観	91
脇独特の血液と霊の感応	91

脇の病氣観は「人は神」に半歩近づいた……………	93
「人は神」(桑原のネオ・スピリチュアリズム)の病氣観……………	95
ネオ・スピリチュアリズムへの飛躍……………	97
<b>第五章</b>	
<b>ネオ・スピリチュアリズムの成立 桑原啓善……………</b>	<b>103</b>
シルバー・バーチの会設立までの軌跡……………	105
一九七三年(昭和四八年) 戦死者の声『同年の兵士達へ』……………	105
一九八一年霊示 不戦非武装の平和運動を決断……………	107
一九八二～八四年 決死の平和運動……………	108
一九八四年 革命家宮沢賢治の発見……………	110

一九八五年	ネオ・スピリチュアリズムの誕生	112
	ネオ・スピリチュアリズムとは何か	113
	ネオ・スピリチュアリズム六か条	113
	ネオ・スピリチュアリズムが西欧のスピリチュアリズムから進化した点	115
	媒体論の意義	120
	因果律で「人は神」を知る	126
	決死の愛の実践がネオ・スピリチュアリズムを生み出した	128
<b>第六章 「決死の愛」は日本の精神</b>		
	武士道の本質との一致	145
	「日本の霊性」の妙好人とテクノボー（決死の愛の人）の一致	147
	道宗——決死の愛に生きる	147

才市——「あなたはわたし」（人は神）に生きる……………	149
日本の心（生命一元）の再生……………	156
童話「鳥の北斗七星」（宮沢賢治）と決死の愛……………	156
国家神道（天皇だけが神）の誤り……………	160
日本の生命一元論が世界平和の原理……………	162
終わりに——ネオ・スピリチュアリズムは神界計画……………	164
あとがき……………	169
初出一覧……………	172

